

小児科

診療科目：小児科

診療科担当研修責任者名：齋藤 昭彦（小児科教授）
診療科連絡先担当者名：今村 勝（小児科総括医長）連絡先：shounika@med.niigata-u.ac.jp

新臨床研修医指導実績：16年度：26人。17年度：22人。18年度：21人。19年度：18人。20年度：9人。21年度：27人。22年度：33人。
23年度：10人。24年度：9人。25年度：3人。26年度：6人。27年度：5人。28年度：7人。29年度：10人。
30年度：6人。

受入期間：1ヶ月以上

同時受け入れ可能数：5人以内

◇◇◇学会認定専門医数◇◇◇

小児科学会専門医27人、腎臓学会専門医3人、内分泌学会内分泌代謝専門医1人、糖尿病学会専門医1人、周産期専門医2人、血液学会専門医3人、感染症専門医2人、臨床遺伝専門医1人、小児循環器専門医2人、甲状腺学会専門医1人、小児血液がん専門医3人、リウマチ専門医1人、造血細胞移植認定医2人、周産期新生児専門医3人

◇◇◇学会認定指導医数◇◇◇

小児科学会指導医13人、内分泌学会内分泌代謝指導医1人、感染症指導医2人、小児血液がん指導医1人、リウマチ指導医1人、小児感染症暫定指導医3人、周産期指導医1人、周産期新生児指導医1人

◇◇◇学会専門医修練施設としての認定◇◇◇

小児科学認定施設、腎臓学会認定施設、内分泌学会認定施設、小児血液学会認定施設、小児循環器学会認定施設、周産期・新生児医学会認定施設、糖尿病学会認定施設

診療科の概説・特徴

新潟大学病院小児科は、未来を担う子ども達の代弁者（Advocate）としての小児科医、高度な専門性を持つと同時に「全人的医療」ができる小児科医を育成することを目標にしています。過去20年で150人以上の若い力が私共の教室に参加し、全国でも有数の小児科医教育を育成してきました。小児科の主要領域（腎臓、リウマチ・膠原病、血液・腫瘍・免疫、循環器、感染症、内分泌・代謝（新生児））において、国際性・多様性・熱意を持つ各専門指導医を揃えていますので、研修医の皆さんには小児医療における難解な初期診断や治療方針の決定や入院管理の過程で、様々な経験を積んでいただくことが出来ます。また、救急医療では小児における総合診療の経験も得ることができます。

小児病棟と周産母子センター新生児集中治療部において、6つの専門グループに分かれて小児の主要な領域の診療に当たっています。研修医の先生には各診療チームの一員として診療に当たってもらいます。毎朝8:15からジャーナルクラブ、症例検討、小講座など30分間のカンファレンスを行っています。研修医にも積極的に参加して頂きます。毎週木曜日には症例検討会、教授回診があります。担当外の症例についての検討に参加してもらいます。この病棟研修を通して、問診、患児やご家族とのコミュニケーションのとり方、診察法、検査の出し方、そしてその結果の評価法を研修します。外来診療研修では、採血、点滴、注射といった処置や、新患の予診などを行います。当科の外来は処置が多いので、4週間の研修でも幼小児の処置が一通りできるようになります。さらに、研修医の皆さんが小児急性疾患・救急疾患を経験できるように、一般救急研修の充実を図っています。新潟市医師会のご協力により新潟市急患センターで小児一次救急の研修を、そして当科が二次輪番救急当番日に指導医とともに当直をすることによって緊急入院における初期対応の経験を積むことができます。

学術的な指導も充実しています。教室員によるリサーチミーティングにも参加していただけます。また研修最終週には学会形式の症例報告会も行い、学会発表におけるスキルについても学ぶことができます。

消化器外科、乳腺・内分泌外科

診療科目：消化器外科、一般外科、乳腺・内分泌外科

診療科担当研修責任者名：若井 俊文（消化器・一般外科、乳腺・内分泌外科教授）
診療科連絡先担当者名：滝沢 一泰（消化器・一般外科、乳腺・内分泌外科総括医長）連絡先：su1admin@med.niigata-u.ac.jp

新臨床研修医指導実績：16年度：34人。17年度：41人。18年度：18人。19年度：7人。20年度：3人。21年度：5人。22年度：4人。
23年度：4人。24年度：3人。25年度：1人。26年度：1人。27年度：3人。28年度：4人。29年度：6人。
30年度：2人。

受入期間：1ヶ月以上

同時受け入れ可能数：6人以内

◇◇◇学会認定専門医数◇◇◇

外科学会専門医25人、消化器外科学会専門医15人、乳癌学会専門医4人、消化器病学会専門医7人、大腸肛門病学会専門医3人、消化器内視鏡学会専門医1人、肝胆膵外科高度技能専門医1人、日本救急医学会専門医1人、内分泌・甲状腺外科学会専門医1人

◇◇◇学会認定指導医数◇◇◇

外科学会指導医6人、消化器外科学会指導医7人、消化器病学会指導医1人、肝胆膵外科高度技能指導医2人、乳癌学会指導医1人、大腸肛門病指導医2人、胆道学会指導医2人

◇◇◇学会専門医修練施設としての認定◇◇◇

外科学会指定施設、消化器外科学会認定施設、消化器病学会認定施設、大腸肛門病学会関連施設、消化器内視鏡学会認定施設、日本乳癌学会研修施設、肝胆膵外科高度技能専門医修練施設（A）、食道外科専門医認定施設、肝臓学会認定施設、胆道学会指導施設、脾臓学会指導施設

診療科の概説・特徴

当科は新潟医学専門学校創立当初の外科学教室として開設以来、技術の高い信頼できる外科医を育成・輩出をしてきました。現在、消化器・一般外科として、主に上部消化管、下部消化管、肝胆膵・移植、乳腺の4つを担当領域の主軸としています。新しい外科技術を駆使できる応用力、チーム医療をリードする協調性と指導力、Academic surgeonを目指す学術的な推進力、こうした要素を持った人材を一人でも多く育成できるよう、診療・指導にあたっています。新潟県内、日本国内のみならず、海外にも通用するマルチチャレンジな外科医の育成を目標としています。

診療科研修の特徴等

消化器・一般外科コース、乳腺専門医コースの2つがあります。外科医に要求される基礎的な診療能力（医療技術、問題解決能力、チーム医療）の習得をめざします。
1) 多様な外科疾患・手術を経験することにより、最終的には高難度手術・先端的な手術へつながる幅広い外科的技術が身につくよう指導します。外科専門医資格取得に必須である呼吸循環外科、小児外科の研修も可能になっています。消化器外科を志す初期研修医（選択コース）に対して、主要消化器手術および腹腔鏡実習トレーニングを積極的に行ってもらっています。
2) 専門性に必要な学術的業績の指導も行い、国際的にも活躍できる人材の育成を目指します。また外科医同士の連携・人脈を実感してもらうため学外研修・研究会および学会参加・海外留学を積極的に行ってています。将来、視野を広くもち、困難な症例・状況を問題解決していく能力につながります。
3) 大学およびハイボリューム病院での研修を組み合わせた研修が基本です。多くの指導医から手術技能・知識を獲得しながら、専門医資格（卒後6年目）をとるだけでなく、基本的外科手術そして医療技術にて救命する力をもつ、患者・他科医師から信頼されるAcademic surgeonを目指してください。